

動物実験に関する自己点検・評価報告書

国立大学法人九州工業大学

平成 2 4 年 9 月

I. 規程及び体制等の整備状況

1. 機関内規程

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する機関内規程が定められている。 <input type="checkbox"/> 機関内規程は定められているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 機関内規程が定められていない。
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>九州工業大学動物実験等に関する規程（改正 平成22年10月28日、九工大規程第32号）、九州工業大学動物実験に関する実施細則（改正 平成23年12月21日、九工大細則第22号）</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）</p> <p>基本指針に則り、九州工業大学における動物実験に関する規則を改正し、九州工業大学動物実験等に関する規程を定めた。</p>
<p>4) 改善の方針</p> <p>該当せず。</p>

2. 動物実験委員会

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合する動物実験委員会が置かれている。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれているが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 動物実験委員会は置かれていない。
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>九州工業大学動物実験等に関する規程（改正 平成22年10月28日、九工大規程第32号）、九州工業大学動物実験に関する実施細則（改正 平成23年12月21日、九工大細則第22号）、九州工業大学動物実験専門部会要項（平成22年1月18日 研究・産学連携委員会決定）、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物実験要項（改正 平成22年3月25日）、九州工業大学大学院情報工学研究院動物実験細則（平成23年3月16日、九工大情報工学研究院細則第1号）、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物実験委員会内規（改正 平成22年3月25日）、九州工業大学大学院情報工学研究院動物実験委員会要項（改正 平成23年3月16日）</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）</p> <p>基本指針に適合した、動物実験専門部会（全学組織）、動物実験委員会（生命体工学研究科）、動物実験委員会（情報工学研究院）が設置されている。</p>

4) 改善の方針

該当せず。

3. 動物実験の実施体制

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が定められているか?)

1) 評価結果

- 基本指針に適合し、動物実験の実施体制が定められている。
- 動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 動物実験の実施体制が定められていない。

2) 自己点検の対象とした資料

九州工業大学動物実験等に関する規程（改正 平成 22 年 10 月 28 日、九工大規程第 32 号）、九州工業大学動物実験等に関する実施細則（改正 平成 23 年 12 月 21 日、九工大細則第 22 号）、九州工業大学動物実験専門部会要項（平成 22 年 1 月 18 日 研究・産学連携委員会決定）、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物実験要項（改正 平成 22 年 3 月 25 日）、九州工業大学大学院情報工学研究院動物実験細則（平成 23 年 3 月 16 日、九工大情報工学研究院細則第 1 号）、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物実験委員会内規（改正 平成 22 年 3 月 25 日）、九州工業大学大学院情報工学研究院動物実験委員会要項（改正 平成 23 年 3 月 16 日）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）

上記の自己点検の対象とした資料は基本指針に適合しており、動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告の実施体制が定められている。

4) 改善の方針

該当せず。

4. 安全管理に注意を要する動物実験の実施体制

(遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等の実施体制が定められているか?)

1) 評価結果

- 該当する動物実験の実施体制が定められている。
- 該当する動物実験の実施体制が定められているが、一部に改善すべき点がある。
- 該当する動物実験の実施体制が定められていない。
- 該当する動物実験は、行われていない。

2) 自己点検の対象とした資料

九州工業大学動物実験等に関する規程（改正 平成 22 年 10 月 28 日、九工大規程第 32 号）、国立大学法人九州工業大学放射線障害防止管理規則（改正 平成 22 年 5 月 6 日、九工大規則第 16 号）、九州工業大学遺伝子組換え生物安全管理規則（改正 平成 20 年 4 月 1 日 九工大規則第 3 号）

<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）</p> <p>現在、該当する動物実験は行われていないが、九州工業大学動物実験等に関する規程第 3 1 条には安全管理に特に注意を払う必要がある動物実験等について定めており、規程上禁止はしていない。また、遺伝子組換え実験や放射線障害防止に関しては規程が定められている。</p>
<p>4) 改善の方針</p> <p>今後、規程が定められていない感染実験等を行う際には、感染動物実験等に関する規程等を定める。もしくは、当該実験の実施を、規程等で禁止する条項等を盛り込む必要がある。</p>

5. 実験動物の飼養保管の体制

（機関内における実験動物の飼養保管施設が把握され、各施設に実験動物管理者が置かれているか？）

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正な飼養保管の体制である。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>九州工業大学動物実験等に関する規程（改正 平成 22 年 10 月 28 日、九工大規程第 3 2 号）、九州工業大学動物実験等に関する実施細則（改正 平成 23 年 12 月 21 日、九工大細則第 2 2 号）、九州工業大学動物実験専門部会要項（平成 22 年 1 月 18 日 研究・産学連携委員会決定）、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物実験要項（改正 平成 22 年 3 月 25 日）、九州工業大学大学院情報工学研究院動物実験細則（平成 23 年 3 月 16 日、九工大情報工学研究院細則第 1 号）、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物飼育室内規（改正 平成 22 年 3 月 25 日）、九州工業大学大学院情報工学研究院動物実験委員会要項（改正 平成 23 年 3 月 16 日）、九州工業大学大学院情報工学研究院動物飼育室要項（改正 平成 23 年 3 月 16 日）</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）</p> <p>飼養保管施設の設置は学長の承認を必要とし、設置要件等は規程に定めている。また、実験動物管理者の選任に関しても規程に定めている。</p>
<p>4) 改善の方針</p> <p>該当せず。</p>

6. その他（動物実験の実施体制において、特記すべき取り組み及びその点検・評価結果）

本学は、工学部、情報工学部、大学院生命体工学研究科を有する工学系の総合大学であり、3つのキャンパスに分かれている。そのうち情報工学部の飯塚キャンパス、大学院生命体工学研究科の若松キャンパスにおいて動物実験が行われている。それぞれのキャンパスが離れているため、統合的な動物実験委員会として「動物実験専門部会」を設置すると同時に、よりきめ細やかな管理運営を行うために、飯塚キャンパスと若松キャンパスに、それぞれ「動物実験委員会」を設置し、より安全で動物福祉にも配慮した動物実験の実施体制を構築している。

II. 実施状況

1. 動物実験委員会

(動物実験委員会は、機関内規程に定めた機能を果たしているか?)

1) 評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に機能している。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
2) 自己点検の対象とした資料 九州工業大学動物実験等に関する規程(改正 平成22年10月28日、九工大規程第32号)、九州工業大学動物実験専門部会要項(平成22年1月18日 研究・産学連携委員会決定)、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物実験要項(改正 平成22年3月25日)、九州工業大学大学院情報工学研究院動物実験細則(平成23年3月16日、九工大情報工学研究院細則第1号)、動物実験専門部会議事要旨、動物実験委員会議事録、動物実験計画書、動物実験計画認定表(2011年度)、動物実験結果報告書(2011年度)、動物実験従事者認定表(2011年度)
3) 評価結果の判断理由(改善すべき点があれば、明記する。) 動物実験専門部会、動物実験委員会の委員構成はいずれも、(1)動物実験等に関して優れた識見を有する者、(2)実験動物に関して優れた識見を有する者(獣医師)、(3)その他学識経験を有する者から構成され、動物実験責任者から申請された動物実験計画が動物実験等に関する法令及び機関内規程(九州工業大学動物実験等に関する規程)に適合しているかどうかの審査を各部局の動物実験委員会で実施した後に、全学組織の動物実験専門部会でも審査を行っている。また、教育訓練の受講記録と照らし合わせて、動物実験従事者の認定を行っている。
4) 改善の方針、達成予定時期 該当せず。

2. 動物実験の実施状況

(動物実験計画書の立案、審査、承認、結果報告が実施されているか?)

1) 評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に動物実験が実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。

<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>九州工業大学動物実験等に関する実施細則（改正 平成 23 年 1 月 21 日、九工大細則第 2 号）、九州工業大学大学院生命体工学研究科動物実験要項（改正 平成 22 年 3 月 25 日）、九州工業大学大学院情報工学研究科動物実験細則（平成 23 年 3 月 16 日、九工大情報工学研究科細則第 1 号）、動物実験専門部会議事要旨、動物実験委員会議事録、動物実験計画書、動物実験計画書認定表（2011 年度）動物実験結果報告書（2011 年度）</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）</p> <p>動物実験計画書の立案、審査、承認、実施結果報告は機関内規程に基づき適正に実施されている。各部局の動物実験委員会での審査結果は、部局の長である地区管理者から速やかに学長に上申され、さらに全学組織の動物実験専門部会でも審査を行い、最終的に学長が承認、非承認を決定している。また、結果報告等も地区管理者を経て学長に報告されている。</p>
<p>4) 改善の方針</p> <p>該当せず。</p>

3. 安全管理を要する動物実験の実施状況

（当該実験が安全に実施されているか？）

<p>1) 評価結果</p> <p><input type="checkbox"/> 該当する動物実験が適正に実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 該当する動物実験は、行われていない。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料（安全管理上の事故等があれば、事故記録を対象とする）</p> <p>該当せず。</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>現行では遺伝子組換え動物実験、感染動物実験等を行われていない。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>該当せず。</p>

4. 実験動物の飼養保管状況

(実験動物管理者の活動は適切か? 飼養保管は飼養保管手順書等により適正に実施されているか?)

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。 <input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>飼養保管の標準操作手順書 {動物飼育室使用マニュアル (H 2 3 年改訂版)}、個別動物飼育室使用マニュアル説明会記録、H 2 3 年度 動物種・飼育数一覧表、実験動物の施設外への逸走と対応の記録、サル実験従事者説明会記録、サル関係の誓約書・承諾書</p>
<p>3) 評価結果の判断理由 (改善すべき点や問題があれば、明記する。)</p> <p>実験動物管理者は各部局の長である地区管理者が、当該部局の教育職員の中から指名している。飼育室を使用する動物実験責任者は、飼養保管の標準操作手順書 (動物飼育室使用マニュアル) を用いて動物実験従事者に飼養保管方法手順の指導を行い、その説明の記録を委員会等に提出している。サルの実験を実施する研究室は、サル実験従事者説明会を年度初めに行い報告書を提出している。事故が発生した場合は事故報告書を地区管理者に提出している。動物飼育室のサルはすべて検疫済みでBウィルス陰性のものを搬入しているが、事故が発生した場合は確認のため、当該サルの血清を予防衛生協会に送り、Bウィルスの抗体検査を依頼している。また事故にあった実験従事者の血清を保管している。</p>
<p>4) 改善の方針</p> <p>該当せず。</p>

5. 施設等の維持管理の状況

(機関内の施設等は適正な維持管理が実施されているか? 修理等の必要な施設や設備に、改善計画は立てられているか?)

<p>1) 評価結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に維持管理されている。 <input checked="" type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。 <input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>「実験動物の管理と使用に関する指針」(ILAR)、平成 2 3 年度飼養保管施設の維持管理上の不具合箇所および改善の記録</p>

<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点があれば、明記する。）</p> <p>基本指針や実験動物飼養保管基準では具体的なケージサイズの記載がないので、全ての動物種のケージサイズに関して「実験動物の管理と使用に関する指針」（ILAR）の基準に基づき調査したところ、すべて適合している。</p> <p>必要な施設や設備に関しては、これまで保守、修理されており適正に維持管理されている。</p>
<p>4) 改善の方針、達成予定時期</p> <p>施設の保守契約がされておらず、故障した場合はその都度業者に連絡し修理している。</p> <p>今後は、必要な施設や設備の改善計画を立てる必要がある。</p>

6. 教育訓練の実施状況

（実験動物管理者、動物実験実施者、飼養者等に対する教育訓練を実施しているか？）

<p>1) 評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針や実験動物飼養保管基準に適合し、適正に実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
<p>2) 自己点検の対象とした資料</p> <p>教育訓練の実施記録（講習会案内、受講者名簿、教育訓練資料）</p> <p>個別動物飼育室使用マニュアル説明会記録、サル実験従事者説明会記録</p>
<p>3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）</p> <p>年度初めと秋に教育訓練を実施して、動物実験従事者の認定を行っている。</p> <p>教育訓練の講師は、実験動物に関して優れた識見を有する学外委員が行っている。</p> <p>サルとそれ以外の動物種の取扱いに関しては説明会と称し、教育訓練を行っている。</p>
<p>4) 改善の方針</p> <p>該当せず。</p>

7. 自己点検・評価、情報公開

（基本指針への適合性に関する自己点検・評価、関連事項の情報公開を実施しているか？）

<p>1) 評価結果</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 基本指針に適合し、適正に実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 概ね良好であるが、一部に改善すべき点がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 多くの改善すべき問題がある。</p>
--

2) 自己点検の対象とした資料

動物実験に関する自己点検・評価報告書（平成23年7月作成分を大学ホームページに掲載）

動物実験に関する検証結果報告書（平成23年12月）

3) 評価結果の判断理由（改善すべき点や問題があれば、明記する。）

動物実験に関する自己点検・評価を行い、動物実験に関する検証結果報告書、動物実験に関する規程、実験動物の使用状況について、大学ホームページにて情報公開を実施している。

サイトURL：<http://www.kyutech.ac.jp/information/animal/>

4) 改善の方針

該当せず。

8. その他

（動物実験の実施状況において、機関特有の点検・評価事項及びその結果）

動物実験を行っているキャンパスが2か所あるので、通常管理運営は各地区の動物実験委員会が中心となって行っており、それ以外の管理運営は全学組織である動物実験専門部会が行っている。また、動物実験責任者から申請された動物実験計画を各地区の動物実験委員会と全学の動物実験専門部会とで2度審査するなど万全な審査体制である。しかしながら、昨年度の外部検証で各地区委員会と専門部会の役割分担、承認までの時間的問題や委員の重複に関して指摘があった。この指摘を受け動物実験専門部会で審議した結果、苦情や大きな問題点がないことから現状の体制で実施することとした。